

小さくともキラリと光るまち



もりやまかずまさ
森山 一正
せつつ
摂津市長(大阪府)

摂津市は、大阪府北部に位置する人口約8万6000人、面積約15km²のハート形の小さなまちです。小さなまちではありませんが、市内に事業所が4000以上点在し、世界に通用する技術や物づくりの拠点が多く集まる産業都市として、発展を遂げてきました。

市域には、高速道路や幹線道路が多く通っており、鉄軌道の駅も5駅存在します。また、新幹線の鳥飼車両基地は、休日になれば小さなお子さんを連れてご家族でにぎわいます。そのすぐ隣には新幹線公園が整備されており、初代0系新幹線が展示されています。

そんな本市の特徴は、コンパクトなまちだからこそ、お互いの顔がよく見え、人の



新幹線公園の「初代0系新幹線」

優しさや温かさが感じられるまちであることです。また、市民一人一人の社会参加への意識が高く、自主防災に向けた取り組みや、健康づくりイベントに積極的なことも特徴の一つです。

政治家になって50年

そんな本市の市長として、5期17年目を迎えました。気が付けば、政治家となって50年。私の生い立ちについて少し紹介しましょう。

昭和19年に生まれ、本市で育ち、昭和38年、関西大学へ進学しました。学生時代は、声が大きくエネルギーなこともあり、応援団に入団。団長を任せられ苦労したこともありましたが、応援団という厳しい世界で身に付いた度胸や根性は、後の政治や市政運営にも生きていると思います。

大学卒業後、住宅メーカーの営業マンだった25歳の時、摂津市議会議員選挙に出て初当選。それからは、摂津市議5期と大



筆者の学生時代の応援団姿

阪府議5期、特に府議時代は議長も務め、本市のまちづくりに関わってきました。平成16年に第5代摂津市長に就任し、市政のかじ取り役として市民の信託を受ける立場となりました。

心を育てる「人間基礎教育」をまちづくりのテーマに

人々の生き方が多様化する中、地域社会ではコミュニケーションの希薄化や権利と義務のアンバランスなど、さまざまな歪みが生じています。また、個人主義の肥大化による個の主張の拡大は、家庭や社会、ひいてはまちづくりにも大きな影響を及ぼしています。

このような状況を踏まえ、市長就任以来、本市を小さくともキラリと光る魅力あふれたまちにするべく、「人間基礎教育」をまちづくりの柱に掲げ、強い信念で取り組んでまいりました。これは、「思いやりの心」「奉仕の心」「感謝の心」「あいさつを励行する心」「節約・環境を大切にする心」の五つの心を育み、社会のルールを守る人づくりを目指すものです。市内の公共施設や学校など、至る所に「人間基礎教育」と書かれた看板が設置されているだけでなく、今では市内の教育現場や多くの職場で実践されるまでに浸透してまいりました。

道徳理念の構築をまちづくりの柱にしていくのは、当時では、全国的にも珍しいこ



境内の掃き掃除をする筆者

とでした。道徳理念を持つことは、人として当たり前のことではありませんが、市民一人一人が意識しなければより良いまちづくりを実現していくことは難しいでしょう。教育の根源も、人としての基礎と心を育てることだと考えています。道徳理念は、押し付けるものではありませんが、常識として根付くまで時間がかかっても、新しい時代を担う子どもたちのために、またより良

健康の秘訣ひけつ

いまちにしていくために「人間基礎教育」を今後も掲げ続けていきます。

私は、毎年約500回、行事や地域の会合に足を運びます。実際に市民の顔を見て、活動や思いを知ることができるだけではなく、私の話に聴き入る市民の「眼に触れる」のが楽しみでもあるからです。行事に足を運んだ際、「市長はいつも元気でパワフルですね」と市民の方々から声を掛けていただくことが多いのですが、そんな私の健康の秘訣をご紹介します。

まず一つめ。私は、市長であるとともに、神社の宮司でもあります。毎朝5時頃に起床し、境内を掃き清めることが毎日の日課です。夏の暑い日も冬の寒い日も欠かさず行っているのです、この掃除を行うことで「今日も1日が始まったぞ！」と気合が入ります。

そして二つめは、毎朝自ら手作りする「ニンジンジュース」です。ニンジン・リンゴ・レモンをミキサーで混ぜて作る100%の野菜ジュースで、おいしい上に健康にもいいので、ぜひ皆さんも作ってみてください。

三つめは、机を使って行う腕立て伏せです。毎日400〜500回を目標としています。公務の合間、少しでも時間があれば市長室でも机や壁を使って腕立て伏せをす



日課である腕立て伏せをする筆者

るようになっています。これらの健康法を何10年も毎日欠かさず続けることで、ずっと健康で、元気に市長として日々の公務を行うことができている。

本市は「まちごとフィットネス！」と称し、市内のさまざまな場所にウォーキングコースや健康器具を設置したりと、まちぐるみで健康推進に取り組んでいます。また、平成25年に国立循環器病研究センターの移転が決定したことを契機に、お隣の吹田市とともに、「北大阪健康医療都市（健康都）」のまちづくりを進めてきました。今後は、健康から世界に向けて発信する健康促進や予防医療により、市民に健康づくりのきっかけを提供し、全国にも広げていきたいと考えています。